

北東北三県・北海道ソウル事務所だより（2021年3月）

報告者 職・氏名 所長 成田 斉

1 事業活動の概要

(1) 観光関係

社会的距離置き段階が見直され、イベント類の中止や延期、多くの企業で勤務体制が縮小されたままであることから、企業訪問による打合せ等の会合が難しく、当事務所既存のデータ更新や SNS 投稿を基本としながら、状況に応じて可能な事業実施に向けて調整しております。

・ホームページのアップデート

施設入場料金や営業日など最新の情報に順次更新しております。

・SNSへの投稿

Facebook 4回、Instagram 4回投稿しました。

(2) 物産関係

年末年始の飲食店や卸し業の動きが活発になりつつあるところ、社会的距離置き段階が見直され、可能な事業実施に向け輸入会社や日本側メーカーと随時情報提供しながら進めております。

・バイヤー招聘事業のフォローアップ

主に実績のある企業からの情報を収集し、該当の道県担当者へ情報提供しております。

・イベント出店や試飲試食商談会をきっかけに取引開始（岩手県）

ソウルで開催されたイベントに出店や当事務所主催の試飲試食商談会をきっかけに、韓国の輸入会社と商談が成立し、4月には韓国へ輸入される見込みです。



・試飲試食意見交換会 (3/4)

ソウル市江南地区にある高級ホテル JW マリオットの日本料理店「たまゆら」にて当地域の食材を使った料理と日本酒の試食試飲意見交換会を開催しました。招聘した百貨店やオンラインショップのバイヤーからは、素晴らしい商品がある中でPRが不足しているのではないかとアドバイスをいただいております。



・北東北・北海道Day (3/7 試飲試食意見交換会)

2月8日から26日にかけ日本人が営業している日本食居酒屋を会場に、当地域の産品を使った料理や日本酒の特別販売など新たな取引先の拡大を目指したイベントを開催しましたが、これに関連してホテルのソムリエなど飲食店関係者を招いた試飲試食意見交換会を開催しました。



(3) その他

・東日本大震災10年関連事業 (ソウル3/11-18, 済州3/11)

東日本大震災から10年を迎えるにあたり、救援隊の派遣、物資提供や義捐金送付を行ってくれた韓国に対し感謝を伝え、震災復興がどこまで進んでいるのか、また放射能汚染による風評を払拭する旨の事業がソウルと済州で開催されました。



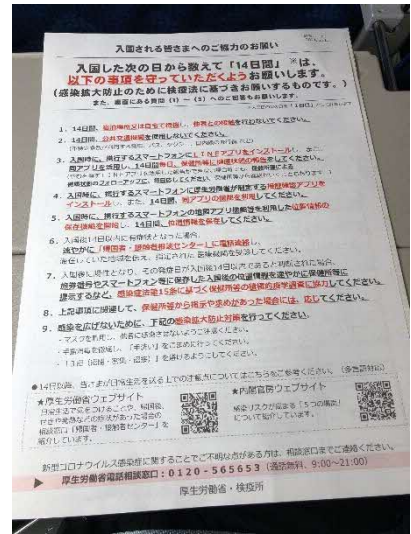
・帰国までの流れ

3月末をもって2年間の任務を終える私は、日本の入国規制に伴う14日間の隔離を鑑みて、3月14日に帰国し隔離生活を続けております。帰国するにあたり、入国の72時間以内にPCR検査を受け、陰性の証明書を持参しなければ日本に帰ることが出来ないため、帰国の2日前に初めてPCR検査を受けました。鼻の中に細長い綿棒を通し粘膜を採取されたのだと思いますが、それが大変痛い痛い。(結果は陰性)

仁川空港では入国後のLINEアプリの設定についての書類、機内では帰国後の生活方法についての誓約書などが渡されました。

成田空港に到着後は、順番に指定席に座らせられ、それから順番に唾液による検査を受けます。成田着から検査結果が出るまでは約90分、やっと入国審査を通過し入国となりました。(荷物が探知犬によって引っかかるというハプニングがありましたが、無事に入国です)

問題はこれから。入国後の14日間は、公共交通機関を利用できません。秋田から迎えに来てくれるはずもなく、秋田市の自宅までは620kmレンタカーの旅で締めくくりました。



・担当者会議開催 (3月17日)

今年度の初めで最後の担当者会議がオンラインで開催され、今年度事業の実施報告、来年度事業の計画を話し合いました。今年度は当初からコロナの影響で事業がほとんど出来ず、コロナ禍で何をすべきか何が出来るのか、日本側の観光・物産の担当者と意見を交換しながら新たな事業を進めておりました。

事務所スタッフもこれまで経験したことがない状況の中で進むべき道を模索し、皆で乗り越えた1年間だった。このメンバーであったからこそ乗り越えられたのだなとも感じております。

この一年は、日韓を行きすることが出来ず画面越しでしかお会いすることが出来ませんでした。皆さんと一緒に仕事をさせていただいたことに感謝しております。

一緒に戦ってくれた事務所のスタッフ3人には特に感謝しております。

2年間、大変お世話になりました。



コロナが収束し、路線の回復、日韓の交流が再開されることを願っております。